

伊吹島-出部屋-より未来へ発信

～ハートの島より愛を込めて～

代表者 丸山彩里 (医学部看護学科4年)

1. 目的と概要

① 出部屋※で産後を過ごした人たちも高齢となり、今後歴史的な価値ある文化の継承が困難となる可能性があるため、その人々の語りにより当時の様子や思いを伝え多くの人に知ってもらう。

② 出部屋の歴史や文化に触れることで、「いのち」が生まれることについて若い世代の人々が自己の考えを見つめる機会を提供する。

※出部屋 出部屋は島共有の産屋であるが、伊吹島では自宅で出産を終えた母子が出部屋に移動して、約1カ月間別火生活を送るために利用された建物

2. 実施期間(実施日)

平成27年5月1日 から 平成28年3月31日

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、2つのことを目的とし取り組みました。

1つ目は、伊吹島の方々と交流し、学んだことを残していくことです。授業で香川県内の助産の歴史の1つとして伊吹島の出部屋について学び、関心が深まり、さらに詳しく知りたいと思いました。伊吹島は過疎化・高齢化が進行しているため、全国的に貴重な出部屋の歴史的価値などが埋もれてしまう可能性があると感じました。また、伊吹島は良質な産地として有名であるが、県内にも出部屋の歴史的価値等を知らない人も多くいると考えられるため、実際に現地に行き、出部屋で産後の生活を経験した人の生の声(例: どのような出産であったか、どのような思いで出産をしたのか、出部屋での生活はどのようなものであったか等)を聞き、伊吹島の方々の思いや歴史・文化を残していきたいと思いました。

2つ目は、「いのち」が生まれることについて考える機会を提供することです。同年代の私たちが出部屋の歴史・文化について学んだことをポスターやパンフレットを用いて伝えることで、今後命を生み育てる若い世代の人々に「いのち」が生まれることについて考える機会を提供したいと考えました。

今回このプロジェクト事業では、事前に学習会を行い、今後の見通しを立て、また、伊吹島や歴史について学びました。第1回訪問では、伊吹島歴史研究会代表世話人の方に御挨拶をし、実際に資料館でお話を聞き知識を深めました。



第2回訪問では、パンフレットやポスターを作成するため、出部屋利用者にインタビューを行い、当時の体験や思いについて聞きました。また、支所にも挨拶に行き、全面的に協力していただけることになりました。第3回訪問では、出部屋跡地に訪れてもらい癒しの空間を提供するために環境整備を行いました。環境整備では、伊吹島を訪れた人が出部屋跡地に立ち寄りたと思える環境を作るため、雑草抜きや花植えを行いました。花植えの際には、島の人にも協力を呼びかけ交流をしながら環境整備を行うことができました。机やベンチを作成修理しました。花は四季に咲く花、また学生が頻繁に行く事が難しいため手入れの簡単な花、経年的に楽しめるキンモクセイを選び、伊吹島に住む人、観光客ともに命が生まれることについてゆっくりと考えられるような癒しの場になるよう工夫しました。

↓環境整備前の出部屋跡地



↓環境整備後の出部屋跡地



第4回訪問では、パンフレット・ポスターの作成を行い、観音寺市役所・伊吹支所・観音寺港・伊吹港・香川大学附属病院・香川大学全学部・香川県立保健医療大学・伊吹島資料館・伊吹島公民館・ぼっこ助産院・瀬戸



内地域活性化プロジェクトに設置し、また平成28年度に開催される瀬戸内国際芸術祭に設置していただけるよう話を進めています。伊吹港から出部屋までの道案内の看板を作成し設置しました。



	日時	人数	内容
事前学習会	5月11～22日	5人	出部屋の歴史について学習
第1回訪問	5月25日	5人	伊吹島歴史研究会代表世話人の方に御挨拶、伊吹島民俗資料館にて見学
第2回訪問	7月3日	5人	出部屋を利用した女性にインタビュー
第3回訪問	9月14、15日	5人	出部屋跡地の環境整備
第4回訪問	1月8日	5人	パンフレット・ポスターの設置、出部屋までの道のりに案内板設置

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクトでは香川大学の学生だけでなく、他大学の学生や地域の人々に呼びかけ、今から命を生み育てる若い人たちに広く伝え残し、「いのち」が生まれることを一緒に考える機会を持つことができました。香川大学は「地域に根ざした学生中心の大学」をモットーとしており、島でのプロジェクト活動によって、普段の学生生活で関わることのない年齢層の島の人々との交流を深めることができました。瀬戸内国際芸術祭は県内外からも島を訪れる人が多いことから、それにむけた準備をしていくことは香川大学としての地域貢献活動をアピールできる機会となると考えます。地域社会へ与える影響として、瀬戸内国際芸術祭で伊吹島に来た際に出部屋に足を運びきっかけになると考えます。雑然としている跡地に花を植え、環境を整備することで地域の人々や訪れる人々にとっての憩いの場を提供することができました。

平成27年度10月8日（木）の四国新聞に活動が取り上げられましたので紹介させていただきます。

「いのち」考える場に

観音寺・伊吹島の出部屋跡を整備へ

観音寺市の伊吹島にある伊吹産院（出部屋）を「いのち」をテーマにした学びの場として整備する。助産師を目指す香川大学看護学科の学生たちがプロジェクトを立ち上げ、花の植栽などの環境整備や案内板作りをスタートさせた。メンバーは「気軽に訪れたい」をコンセプトに、伊吹産院跡に「いのち」をテーマにした学びの場を整備する。伊吹産院跡を整備する「いのち」をテーマにした学びの場を整備する。伊吹産院跡を整備する「いのち」をテーマにした学びの場を整備する。

観音寺市の伊吹島にある伊吹産院（出部屋）を「いのち」をテーマにした学びの場として整備する。助産師を目指す香川大学看護学科の学生たちがプロジェクトを立ち上げ、花の植栽などの環境整備や案内板作りをスタートさせた。メンバーは「気軽に訪れたい」をコンセプトに、伊吹産院跡に「いのち」をテーマにした学びの場を整備する。伊吹産院跡を整備する「いのち」をテーマにした学びの場を整備する。

島News 島を知る

【島News】島全体で子育てをする原点。島の産院を後世に引き継ぐ、看護学生らのプロジェクト

2016.01.28

この記事に含まれる目

伊吹島/香川

香川県高松市にある伊吹島（観音寺市）には、1970年まで妊婦が出産前後に共同生活した「出部屋（でべや）」と呼ばれる産院があった。2015年4月、香川大学医学部看護学科の学生9名がその文化を残すため伊吹産院跡（出部屋跡地）を保存するプロジェクト「伊吹島・出部屋より未来へ発信～ハートの島より愛を込めて～」を始めた。



香川大の看護学生9人 漁と出産の関係聞き取り

伊吹産院跡「いのち」について考える場にしよと取り組む香川大学看護学科の学生9名。伊吹島を訪れ、漁師と産院の関係について聞き取りを行った。伊吹産院跡を整備する「いのち」をテーマにした学びの場を整備する。伊吹産院跡を整備する「いのち」をテーマにした学びの場を整備する。



伊吹産院跡「いのち」について考える場にしよと取り組む香川大学看護学科の学生9名。伊吹島を訪れ、漁師と産院の関係について聞き取りを行った。

また、離島経済新聞で、平成28年1月28日に掲載していただきましたのでURLを紹介させていただきます。<http://ritokey.com/article/news/5088>

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

限られた環境において自分たちにできることを考えて、協力し合いながら計画・行動することで自主性や協調性が養われました。また、普段の学生生活では関わることのできない地域の方や高齢者と交流を深めることができました。それによって、貴重なお話を聞くことができ、過去のお産文化を知ることでこれから私たちが看護師・助産師になる上でとても良い経験になったと思います。



6. 反省点・今後の抱負(計画)・感想等

- ・ 出部屋利用者にインタビューをする上で、利用者の方々が高齢となり少数の声しか聴くことができなかった。
- ・ プロジェクトを広めるために下級生への説明会を実施することができなかった。
- ・ 構成メンバーが、看護師国家試験を控えた4年生のみであったため、時間

の制約が多く、思い通りに進めることが難しかった。校内にパンフレットやポスターを設置し、十分な報告書類や記録を残すことでやりっぱなしにならないような努力はしたが自分たちで直接下級生に活動を報告する場を設けることができなかった。来年度は、4年生だけでなく下級生とも協力して継続して行ってほしいと考える。

7. 構成メンバー

代表者 丸山 彩里(医学部4年)
構成員 山田 真梨子(医学部4年)
鈴木 柚香(医学部4年)
平田 彩乃(医学部4年)
舟田 瑞希(医学部4年)
小谷 まみ(医学部4年)
中井 裕子(医学部4年)
田總 絵莉子(医学部4年)
山重 達矢(医学部4年)